



平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月5日

上場会社名 株式会社バイタルケーエスケー・ホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 3151 URL <http://www.vitalksk.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 村井泰介  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理財務部長 (氏名) 高橋喜春 (TEL) 03-3275-3301  
 四半期報告書提出予定日 平成27年11月12日 配当支払開始予定日 平成27年11月30日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	286,759	8.0	992	31.1	2,855	△11.7	1,935	△23.7
27年3月期第2四半期	265,486	△3.9	756	△36.6	3,233	11.3	2,536	30.4

(注) 包括利益 28年3月期第2四半期 557百万円(△89.9%) 27年3月期第2四半期 5,533百万円(270.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	34.61	29.78
27年3月期第2四半期	43.76	43.61

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第2四半期	303,992	78,204	25.6
27年3月期	304,422	78,208	25.5

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 77,741百万円 27年3月期 77,770百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	8.00	—	10.00	18.00
28年3月期	—	8.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	10.00	18.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	600,000	9.5	3,000	65.5	6,500	6.1	4,200	△7.2	75.11

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料4ページ「四半期連結財務諸表作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料4ページ「サマリー情報(注記事項)に関する事項(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年3月期2Q	61,224,796株	27年3月期	61,224,796株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

28年3月期2Q	5,310,235株	27年3月期	5,310,183株
----------	------------	--------	------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期2Q	55,914,589株	27年3月期2Q	57,973,779株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、平成27年11月6日に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容(音声)については、当日使用する決算説明資料とともに、開催後速やかにホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策や金融政策等により、景気は緩やかな回復基調となりました。

当社グループの主たる事業である医薬品卸売業界におきましては、国の医療費抑制策により平成26年4月の薬価改定で2.65%（消費税増税分を除くと5.64%）の薬価基準の引下げが行なわれました。また昨年は、消費税増税前の駆け込み需要（仮需）の反動があり医薬品市場はやや落ち込みましたが、当第2四半期連結累計期間は仮需反動の影響が無くなったことに加え、C型肝炎治療薬が好調に推移し、医薬品市場は堅調に推移しております。

このような中、当社グループにおきましては、平成25年4月からスタートいたしました3カ年の第2次中期経営計画の最終年度となりました。『医薬品卸売事業において、顧客とWin-Winの関係を構築する』『地域包括ケアシステムに関連した事業に投資し、地域のヘルスケアインフラの構築に貢献する』の2つの中期ビジョン実現に向け最後まで邁進してまいります。

事業子会社である㈱バイタルネットでは、ヘルスケア・コーディネート事業の一環として「洗浄サービス事業部」が平成27年7月に業務を開始いたしました。医薬品卸売事業会社である㈱バイタルネットが持つ医療機関との結び付きや介護事業会社である㈱バイタルケアが持つ介護用品の知識を活かし、グループの力を集結して介護用品の販売、レンタルおよび洗浄サービスに注力してまいります。今後も地域包括ケアシステム実現のために、医療・介護・生活者の連携を図り、ヘルスケアインフラの構築を支援してまいります。

予てより進めてまいりました主要な事業子会社の基幹システム統合が完了し、平成27年5月には㈱バイタルネットで新しい統合システムが稼働いたしました。また、平成28年1月には㈱ケーエスケーで稼働予定であります。基幹システムを統合することで、より一層業務の効率化を図るとともに、グループとしてのシナジー効果を発揮するよう努めてまいります。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、前述したような仮需反動の影響や平成26年7月に㈱オオノを完全子会社化したことに加え、C型肝炎治療薬の販売が予想以上に好調だったことにより売上高は当初予想を上回る結果となりました。一方、販売管理費は、前述したように㈱オオノを完全子会社化したことや、平成27年3月に稼働開始しました㈱バイタルネットの宮城物流センターの減価償却費の増加、基幹システム入替のための一時的な費用の増加がありましたが、最大限のコスト削減に努めてまいりました。結果、連結売上高286,759百万円（前年同期比108.0%）、連結営業利益992百万円（前年同期比131.1%）、連結経常利益2,855百万円（前年同期比88.3%）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,935百万円（前年同期比76.3%）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ① 医薬品卸売事業

医薬品卸売事業におきましては、カテゴリーチェンジにより長期収載品の販売が大幅に減少しましたが、前述しましたとおり、C型肝炎治療薬の販売が予想以上に好調だったことにより売上高は当初予想を上回る結果となりました。また、利益面では、一部のメーカーでの共同仕入による利益の獲得に努めるとともに、カテゴリーチェンジへの的確な対応として単品単価による納入価交渉にも注力してまいりました。さらに、主要な事業子会社（㈱バイタルネットと㈱ケーエスケー）では、平成24年4月より本格稼働した営業戦略システム「VKマーケティング」により、得意先別営業損益状況を基にした営業戦略を実行し、収益力の維持・向上に引き続き努めるとともに不採算先の取引改善交渉にも注力してまいりました。その結果、売上高は、272,598百万円（前年同期比106.7%）、セグメント利益（営業利益）は、863百万円（前年同期比129.5%）となりました。

#### ② その他事業

その他事業におきましては、平成26年7月に㈱オオノを子会社化したことや動物薬卸売事業が好調に推移したため、売上高は、14,161百万円（前年同期比140.6%）、セグメント利益（営業利益）は、83百万円（前年同期比171.3%）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末から430百万円減少し、303,992百万円となりました。内訳は流動資産203,580百万円及び固定資産100,411百万円であります。

流動資産の主な内訳は、現金及び預金25,099百万円、受取手形及び売掛金131,067百万円、たな卸資産29,098百万円及び未収入金16,950百万円であります。なお、現金及び預金が前連結会計年度末に比べ10,269百万円減少したものの、受取手形及び売掛金が7,407百万円及び未収入金が2,790百万円増加したこと等により、流動資産が1,225百万円増加しております。

固定資産の内訳は、有形固定資産36,518百万円、無形固定資産8,015百万円及び投資その他の資産55,877百万円あります。なお、投資有価証券が前連結会計年度末に比べ1,974百万円減少したこと等により、固定資産が1,655百万円減少しております。

負債は前連結会計年度末から426百万円減少し、225,787百万円となりました。内訳は流動負債192,203百万円及び固定負債33,583百万円あります。

流動負債の主な内訳は、支払手形及び買掛金184,170百万円及び賞与引当金1,558百万円あります。なお、支払手形及び買掛金が前連結会計年度末に比べ2,687百万円増加したこと等により、流動負債が1,942百万円増加しております。

固定負債の主な内訳は、転換社債型新株予約権付社債10,041百万円、繰延税金負債8,901百万円及び退職給付に係る負債7,407百万円あります。なお、前連結会計年度末に比べ繰延税金負債が701百万円及び長期借入金が522百万円減少したこと等により、固定負債が2,369百万円減少しております。

純資産は前連結会計年度末から3百万円減少し、78,204百万円となりました。主な要因は親会社株主に帰属する四半期純利益1,935百万円の計上、その他有価証券評価差額金1,311百万円の減少及び配当金を支払ったことによる559百万円の減少であります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、19,419百万円となりました。

## （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、営業活動による資金の減少は6,993百万円となりました。これは主として税金等調整前四半期純利益2,882百万円の計上及び非資金項目である減価償却費1,458百万円等の増加要因があったものの、売上債権の増加額7,444百万円及び未収入金の増加額2,646百万円等の減少要因によるものであります。

## （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、投資活動による資金の増加は490百万円となりました。これは主として無形固定資産の取得による支出1,355百万円等の減少要因があったものの、定期預金の減少額2,290百万円等の増加要因によるものであります。

## （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において、財務活動による資金の減少は1,477百万円となりました。これは主として長期借入金の返済による支出532百万円、リース債務の返済による支出385百万円及び配当金の支払額557百万円等の減少要因によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向等を踏まえて、平成27年5月14日に公表しました平成28年3月期の業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、平成27年10月30日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」を参照してください。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### 税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、  
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び  
「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)  
等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額  
を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更い  
たしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定  
による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方  
法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更  
を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、  
四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び  
事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点  
から将来にわたって適用しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	35,368	25,099
受取手形及び売掛金	123,659	131,067
たな卸資産	27,811	29,098
未収入金	14,159	16,950
その他	1,735	1,716
貸倒引当金	△380	△350
流動資産合計	202,355	203,580
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	16,839	16,852
土地	16,852	16,797
その他(純額)	3,295	2,868
有形固定資産合計	36,987	36,518
無形固定資産		
のれん	4,817	4,662
その他	2,349	3,353
無形固定資産合計	7,167	8,015
投資その他の資産		
投資有価証券	46,697	44,722
その他	12,514	12,392
貸倒引当金	△1,299	△1,237
投資その他の資産合計	57,912	55,877
固定資産合計	102,066	100,411
資産合計	304,422	303,992

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	181,483	184,170
短期借入金	1,050	1,050
1年内返済予定の長期借入金	1,064	1,054
未払法人税等	869	1,011
賞与引当金	1,804	1,558
その他の引当金	178	184
その他	3,811	3,175
流動負債合計	190,260	192,203
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	10,045	10,041
長期借入金	3,280	2,758
その他の引当金	212	176
負ののれん	2,947	2,578
退職給付に係る負債	7,703	7,407
その他	11,764	10,621
固定負債合計	35,953	33,583
負債合計	226,214	225,787
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	12,675	12,675
利益剰余金	40,863	42,239
自己株式	△4,060	△4,060
株主資本合計	54,478	55,854
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,005	19,694
退職給付に係る調整累計額	2,286	2,192
その他の包括利益累計額合計	23,292	21,886
非支配株主持分	437	463
純資産合計	78,208	78,204
負債純資産合計	304,422	303,992



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	265,486	286,759
売上原価	245,517	265,665
売上総利益	19,969	21,093
返品調整引当金戻入額	173	178
返品調整引当金繰入額	173	184
差引売上総利益	19,969	21,088
販売費及び一般管理費	19,212	20,095
営業利益	756	992
営業外収益		
受取利息	74	71
受取配当金	370	431
負ののれん償却額	368	368
持分法による投資利益	813	70
受取事務手数料	691	718
その他	258	290
営業外収益合計	2,577	1,950
営業外費用		
支払利息	25	22
賃貸費用	32	42
その他	43	22
営業外費用合計	101	87
経常利益	3,233	2,855
特別利益		
固定資産売却益	0	3
貸倒引当金戻入額	21	31
受取保険金	162	—
受取補償金	60	88
その他	55	26
特別利益合計	299	149
特別損失		
固定資産売却損	—	0
減損損失	6	102
その他	6	19
特別損失合計	12	122
税金等調整前四半期純利益	3,520	2,882
法人税等	964	919
四半期純利益	2,555	1,962
非支配株主に帰属する四半期純利益	18	27
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,536	1,935

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	2,555	1,962
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,736	△1,282
退職給付に係る調整額	△33	△100
持分法適用会社に対する持分相当額	274	△21
その他の包括利益合計	2,977	△1,405
四半期包括利益	5,533	557
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,514	529
非支配株主に係る四半期包括利益	18	27

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,520	2,882
減価償却費	1,225	1,458
減損損失	6	102
のれん償却額	78	154
負ののれん償却額	△368	△368
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△70	△91
賞与引当金の増減額(△は減少)	△438	△245
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	343	△479
受取利息及び受取配当金	△445	△503
受取賃貸料	△46	△74
受取事務手数料	△691	△718
支払利息	25	22
持分法による投資損益(△は益)	△813	△70
投資有価証券売却及び評価損益(△は益)	△8	△25
有形固定資産売却損益(△は益)	△0	5
売上債権の増減額(△は増加)	7,481	△7,444
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,578	△1,286
未収入金の増減額(△は増加)	943	△2,646
仕入債務の増減額(△は減少)	△11,884	2,687
差入保証金の増減額(△は増加)	△43	△44
その他	△1,043	△963
小計	△650	△7,649
利息及び配当金の受取額	446	502
受取事務手数料の受取額	692	703
受取補償金の受取額	60	88
保険金の受取額	162	—
利息の支払額	△26	△22
法人税等の支払額	△799	△835
法人税等の還付額	860	273
その他	△9	△54
営業活動によるキャッシュ・フロー	735	△6,993

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額(△は増加)	1,734	2,290
有形固定資産の取得による支出	△2,841	△637
有形固定資産の売却による収入	0	8
無形固定資産の取得による支出	△446	△1,355
投資有価証券の取得による支出	△2,641	△25
投資有価証券の売却による収入	13	1
投資事業組合からの分配による収入	15	68
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△5,246	—
その他	186	140
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△9,225</b>	<b>490</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	1,200	—
長期借入金の返済による支出	△916	△532
転換社債型新株予約権付社債の発行による収入	10,050	—
リース債務の返済による支出	△365	△385
自己株式の取得による支出	△2,073	△0
配当金の支払額	△464	△557
その他	△34	△2
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>7,396</b>	<b>△1,477</b>
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>△1,093</b>	<b>△7,979</b>
現金及び現金同等物の期首残高	25,206	27,398
現金及び現金同等物の四半期末残高	24,113	19,419

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	医薬品卸売 事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	255,412	255,412	10,074	265,486	—	265,486
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,192	1,192	1,297	2,490	△2,490	—
計	256,604	256,604	11,372	267,976	△2,490	265,486
セグメント利益	666	666	48	715	41	756

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医薬品等の小売業、農薬・動物用医薬品の卸売業、運送業、介護サービス業、医療機関に対するコンサルティング業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額41百万円はセグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	医薬品卸売 事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	272,598	272,598	14,161	286,759	—	286,759
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,989	1,989	1,316	3,306	△3,306	—
計	274,588	274,588	15,478	290,066	△3,306	286,759
セグメント利益	863	863	83	946	45	992

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医薬品等の小売業、農薬・動物用医薬品の卸売業、運送業、介護サービス業、医療機関に対するコンサルティング業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額45百万円はセグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。